

日本映画放送株式会社 第69番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和元年5月21日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 10名 / 出席委員数 10名
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・
砂川 浩慶・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正・
宮崎 美紀子・山川 鉄郎
放送事業者側出席者：常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 小川 勇樹
編成制作部 三宅 歩
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

時代劇専門チャンネル「小河ドラマ 龍馬がくる」について

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネル「4ヶ月連続 追悼特集 萩原健一」について

5. 議題(1) 概要

「大河ドラマ」のような壮大なスケールではなく、「スケールの小さな史実で偉人を描く」をコンセプトにしたオリジナルコメディ時代劇、「小河ドラマ」シリーズ。2017年の第1弾「織田信長」に続き、第2弾では坂本龍馬を取り上げた。

関西テレビと番組を共同制作し、これまでにないウインドウ展開を実施。2018年11月27日から関西テレビでテレビ初放送(地上波・関西エリア)し、見逃し配信をした。12月からは地上波・ローカル各局で放送。12月15日からは2週間限定劇場公開し、多媒体で積極的に展開した後、時代劇専門チャンネルでしか見られない特別篇を併せ、12月30日に弊社にて全4話一挙放送した。放送後の評判も良く、今後ノベライズして刊行予定。

【審議ポイント】

- 史実とドラマのバランスがとれていたと考えますか。
- 新しいウインドウ展開について、ご意見をお聞かせください。

6. 議題（1）審議内容

- ・ 箸休めの番組があっても良い。大河ドラマで最も多いクレームは「史実と違う」だそうだが、フィクションなのだから史実にこだわる必要はない。配信に勢いがあるのは確かだが、放送にも強みはある。大事なことはコンテンツをつくり続けることだ。
- ・ 関西テレビとの共同制作だが、制作費はオリジナルドラマと比べるとどうだったのか。また、坂本龍馬の地元、高知さんさんテレビで放送されたそうだが、評判が気になる。
- ・ すごく面白かった。女性受けも良いのではないかと。司馬遼太郎の小説などで描かれる竜馬像とのギャップに感情移入しにくいのが、144分集中して見るのができた。マルチウインドウ展開の流れも良い。地上波放送で評判が良かったことも高く評価できる。
- ・ 司馬遼太郎の『竜馬がゆく』に引っかけて「龍馬がくる」というタイトルも笑わせるし、龍馬ファンの武田鉄矢の前に本物の龍馬が現れる設定も面白い。期待して見たが、途中でギブアップした。ワンアイデアで4話を引っ張るのは無理。笑いのツボも違った。
- ・ 低予算でありながら、権威ある大河ドラマに一矢を報いた。様々な意見があるだろうが、製作陣の勇気とパワーに敬服している。大河ドラマのスタッフの感想を聞きたい。
- ・ 私には面白くなかった。ヒネリが足りない。ドラマに徹した方が面白くなるのではないかと。第3弾は本作以上にもっと振り切ってハチャメチャな娯楽作にしてもいい。
- ・ 「小河ドラマ」は、若者が見られる時代劇の1ジャンルを新しく開拓した。ただ、中身には不満。第三弾では細部をもっと緻密につくってほしいし、タイムスリップしてきた江戸の人々の違和感に焦点を当て、もっと笑いをとってほしい。
- ・ セルフパロディのオンパレードに、武田鉄矢がよく出演したと驚いた。チャレンジとしては良いが、ギャグやコントに頼らず、もっと刺激的につくり、大河ドラマをチクリと刺してほしかった。ノベライズの話には驚いたが、漫画にした方が売れるのではないかと。
- ・ スケールは決して小さくない。出落ちでもおかしくないネタだが、最後まで飽きさせなかった。武田鉄矢がエキストラ的に扱われるシーンだけ腑に落ちなかったが、他はとても面白く見られた。第3弾も楽しみだ。
- ・ 歴史劇が背負わざるを得ない、史実とリアルとドラマの関係にアプローチした作品。ここで問われるのは「歴史」の仮面を被った「リアル」のイメージだ。前作より一段ステップアップしたのは、「史実」との距離感が緊張したものになり、ドラマなりの新しい人物像が打ち出せたからだ。死について鋭い視線をにじませた点でも良作だ。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・ 若手スタッフの発想で制作した。「小河」と銘打ち、大河ドラマのイメージに対して対照的につくったつもりだ。坂本龍馬が教科書からも消えるという噂もあるが、龍馬が魅力的な人物だったことに間違いはなく、その点をとっかかりにドラマをつくった。龍馬の地元・高知さんさんテレビでも放送し、好評をいただいたのは嬉しかった。
- ・ ある権利元から「いつでも見られる利便性は、いつも見ないことにも繋がる」と指摘さ

れた。配信に勿論メリットはあるが、全てオンデマンドにする予定はない。コンテンツを大切に、コンテンツに応じた展開をしていきたい。

- ・ 珍しく振り切ったコメディだが、これは年齢層の低いマーケットを開発するためのトライアルの1つとして考えた。作品ごとにウインドウ展開を変える手応えを感じていた。企画もウインドウ展開も今後も実験していきたい。本格時代劇のオリジナルドラマシリーズも今後制作が増えていく予定だ。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル 「4ヶ月連続 追悼 萩原健一」について

70年代に一世を風靡した俳優の萩原健一がこの3月26日に亡くなった。28日に訃報が伝わり、当チャンネルでは3月30日深夜に「傷だらけの天使」の1～8話を、31日深夜に「君は海を見たか」全11話を緊急編成した。そして5月からは4か月連続で出演作の特集放送を決定した。5月5日からは「傷だらけの天使」全26話一挙放送を行い、好評だった。6月からは出演映画10作品を放送する。中でも『いつかギラギラする日』は、2011年2月に「日曜邦画劇場」で放送した際の萩原の特別インタビューと、共演の荻野目慶子、千葉真一のコメントも併せて放送予定。また、オリジナル追悼番組も放送する。出演はドラマ「君は海を見たか」の脚本家・倉本聰、「傷だらけの天使」の撮影監督・木村大作など。時代劇専門チャンネルでも5月27日から主演テレビ時代劇「風の中のあいつ」を放送中。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2019年8月20日15時より開催。